

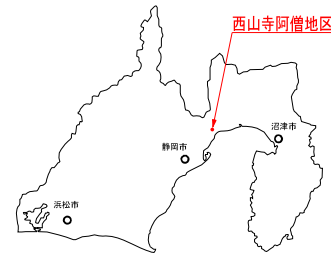
番号	10	平成26年度公共事業事後評価調査			担当課名[農地整備課]																							
事業名	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）			事業主体	静岡県																							
箇所名	にしやま であ そう 西山寺阿僧			市町名	静岡市																							
事業概要																												
受益面積	20.1ha	採択年度	平成10年度	完了年度	当初 実績	平成14年度 平成20年度																						
事業費	前回	850百万円（H15再評価時）	実績	1,040百万円																								
事業量	農道 4,401m（幹線 幅員5.0m 700m、支線 幅員4.5m～5.5m 3,701m） 区画整理 10.7ha（農地造成 10.7ha） 畑地かんがい 10.7ha（管路 1,619m、ファームポンド1箇所）																											
事業の目的・必要性																												
<p>本地区は、低山地が連なる急峻不整形な樹園地地帯であり、また、農道等の整備は不十分であるため、労働生産性は低く規模拡大が阻害されていた。</p> <p>本事業では、区画整理による農地の平坦化・集団化、農道整備による営農労力節減、良質な品種への改植等により、農業経営の安定を図り、将来に希望をもった農業の担い手を育成し、農業経営の安定を早期に実施する。</p>																												
事業の効果等																												
費用対効果 分析結果	前回 再評価時 (H15)	B/C	1.06	総費用 8.92 億円 (事業費：8.92 億円)	総便益 9.43 億円 (農業生産向上効果 3.96 億円 農業経営向上効果 5.43 億円 地域資源保全・向上効果 0.04 億円)	基準年 平成15年																						
	事後	B/C	1.42	総費用 18.52 億円 (事業費：17.25 億円 再整備費等：1.27 億円)	総便益 26.47 億円 (食料安定供給確保効果：26.44 億円 農村振興効果：0.03 億円)	基準年 平成25年																						
<p>1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間や費用分析手法の変更に伴い、総費用・総便益額が増加した。 ・農地の平坦化やパイプラインの整備により、高品質化や単収増加が図られた。 ・区画整理、農道整備等により農業機械の導入が促進され、生産性向上や労働時間短縮が図られた。 <p>2) 事業効果の発現状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業効果項目</th> <th>事業効果内容</th> <th>便益額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">食料の安定供給の確保に関する効果</td> <td>・作物生産効果 区画整理及び畑地かんがい施設による増収効果</td> <td>5.49億円</td> </tr> <tr> <td>・品質向上効果 路面状況改善による荷傷み防止効果</td> <td>0.77億円</td> </tr> <tr> <td>・営農経費節減効果 区画整理及び畑地かんがい施設による作業時間短縮効果</td> <td>3.85億円</td> </tr> <tr> <td>・維持管理費節減効果 施設整備により修繕等の維持管理が発生</td> <td>△0.12億円</td> </tr> <tr> <td>・営農に係る走行経費節減効果 道路状況改善による輸送時間の短縮</td> <td>16.44億円</td> </tr> <tr> <td>農村の振興に関する効果</td> <td>・地籍確定効果 区画整理と併せて実施した換地により地籍が明確化</td> <td>0.03億円</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">地域独自の効果</td> <td>・農地の利用集積効果 効率的で生産性の高い畑地となり、農地の流動化が促進</td> <td rowspan="3">—</td> </tr> <tr> <td>・防災機能の効果 高台に平場が出来たことにより、津波の避難場所を確保</td> </tr> <tr> <td>・地域保全の効果 非農家を含めた活動組織が立ち上げられ、地区内の日常管理を実施</td> </tr> </tbody> </table>							事業効果項目	事業効果内容	便益額	食料の安定供給の確保に関する効果	・作物生産効果 区画整理及び畑地かんがい施設による増収効果	5.49億円	・品質向上効果 路面状況改善による荷傷み防止効果	0.77億円	・営農経費節減効果 区画整理及び畑地かんがい施設による作業時間短縮効果	3.85億円	・維持管理費節減効果 施設整備により修繕等の維持管理が発生	△0.12億円	・営農に係る走行経費節減効果 道路状況改善による輸送時間の短縮	16.44億円	農村の振興に関する効果	・地籍確定効果 区画整理と併せて実施した換地により地籍が明確化	0.03億円	地域独自の効果	・農地の利用集積効果 効率的で生産性の高い畑地となり、農地の流動化が促進	—	・防災機能の効果 高台に平場が出来たことにより、津波の避難場所を確保	・地域保全の効果 非農家を含めた活動組織が立ち上げられ、地区内の日常管理を実施
事業効果項目	事業効果内容	便益額																										
食料の安定供給の確保に関する効果	・作物生産効果 区画整理及び畑地かんがい施設による増収効果	5.49億円																										
	・品質向上効果 路面状況改善による荷傷み防止効果	0.77億円																										
	・営農経費節減効果 区画整理及び畑地かんがい施設による作業時間短縮効果	3.85億円																										
	・維持管理費節減効果 施設整備により修繕等の維持管理が発生	△0.12億円																										
	・営農に係る走行経費節減効果 道路状況改善による輸送時間の短縮	16.44億円																										
農村の振興に関する効果	・地籍確定効果 区画整理と併せて実施した換地により地籍が明確化	0.03億円																										
地域独自の効果	・農地の利用集積効果 効率的で生産性の高い畑地となり、農地の流動化が促進	—																										
	・防災機能の効果 高台に平場が出来たことにより、津波の避難場所を確保																											
	・地域保全の効果 非農家を含めた活動組織が立ち上げられ、地区内の日常管理を実施																											

事業により整備された施設の管理状況
<p>農道・排水路：静岡市 畑かん施設：西山寺阿僧土地改良区 ※区画整理された優良農地は耕作者により健全に営農がなされている。 ※事業完了を契機に立ち上げられた「オレンジ浜石“S”という活動組織が、ふじのくに美農里プロジェクトに取組み、地区内の農地、農道、排水路などの日常管理を地域ぐるみで実施している。</p>
事業実施による環境の変化
<p>(1) 生産力の強化について ①区画整理事業によりほ場の接道条件、傾斜、形状が改善され、収穫作業において従来と比べ2倍の作業効率となった。(330kg/人・日→600kg/人・日) ②圃場の平坦化により日照時間の増大と効率的な栽培管理が可能となり、収量の増大と品質の向上が図られた。(反収2,171kg→3,000kg) ③生産基盤の条件が改善されたことにより、従来の柑橘栽培のほか、葉物野菜、イチジクなどの作付も行われ、多角的な農業経営への取組みが見受けられる。 (2) 農村生活環境について ①ふじのくに美農里プロジェクトの活動により、法面への桜の植樹、農道沿いの余地に水仙の植栽などの取組みが行われ、農村環境の快適性が向上している。 ②区画整理内の農道は、生活道路としての活用もあり、利便性が向上している。</p>
社会経済情勢等の変化
<p>(1) 地域社会の動向 ・由比町は、平成20年11月に静岡市に編入合併した。 ・国勢調査による静岡市の産業別人口をみると、平成17年は、総就業人口372,701人に対し第1次産業従事者数が12,695人(構成比3.4%)であったが、平成22年は、総就業人口357,916人に対し第1次産業従事者数が9,833人(構成比2.8%)に大きく減少している。 ・平成24年11月に由比地区を所管する「するが路農業協同組合」が分割され、清水区内の事業所は、清水農業協同組合に継承された。 ・平成24年5月に開通した新東名高速道路の新清水ICの開設により、農産物の販路拡大の外、交流人口の増大も見込まれる。 (2) 地域経済の動向 ・清水農業協同組合への移行に伴い、従来の人による選果から光センサーによる選果となり、今まで以上の高品質な生産物が期待できる。また、市場への効果的な出荷も可能となり、営農者の生産意欲は高まっている。</p>
対応方針(案)
<p>(1) 評価結果 ・費用対効果は十分に発現しており、現時点で改善措置の必要はない。 ・区画整理、農道、畑かんの整備により、生産量・品質の向上、営農労力の軽減が図られた外、担い手の育成と集積が進み、生産地として強化された。 ・生産地の一層の強化に向けて、さらなる取組は必要である。 (2) 今後の課題等 ・産地の競争力強化に向け、認定農業者が地域における営農の大部分を担う構造を構築するべく、さらなる集積を進める必要がある。 ・一層の生産物の高品質・営農の効率化を図るために、さらにマルチドリップ灌漑の整備等を充実させる必要がある。 (マルチドリップ灌漑：根からの水の吸い上げを制限するためシートを敷き、点滴かんがいを行うことで果実の高品質化を図る。) ・新東名の開通により、増加が見込まれる交流人口を受入れる取組について、具体化させていく必要がある。 (3) 同種事業への反映等 ・本事業では、産地・地域が求める営農を検討し、必要な整備を実施している。今後、同種工事においても、関係機関等を含め営農について協議し、地域の特色を踏まえつつ効率的な整備を推進していく。</p>

畑地帯総合整備事業（担い手育成型） 西山寺阿僧地区 位置図

縮尺 1:25,000

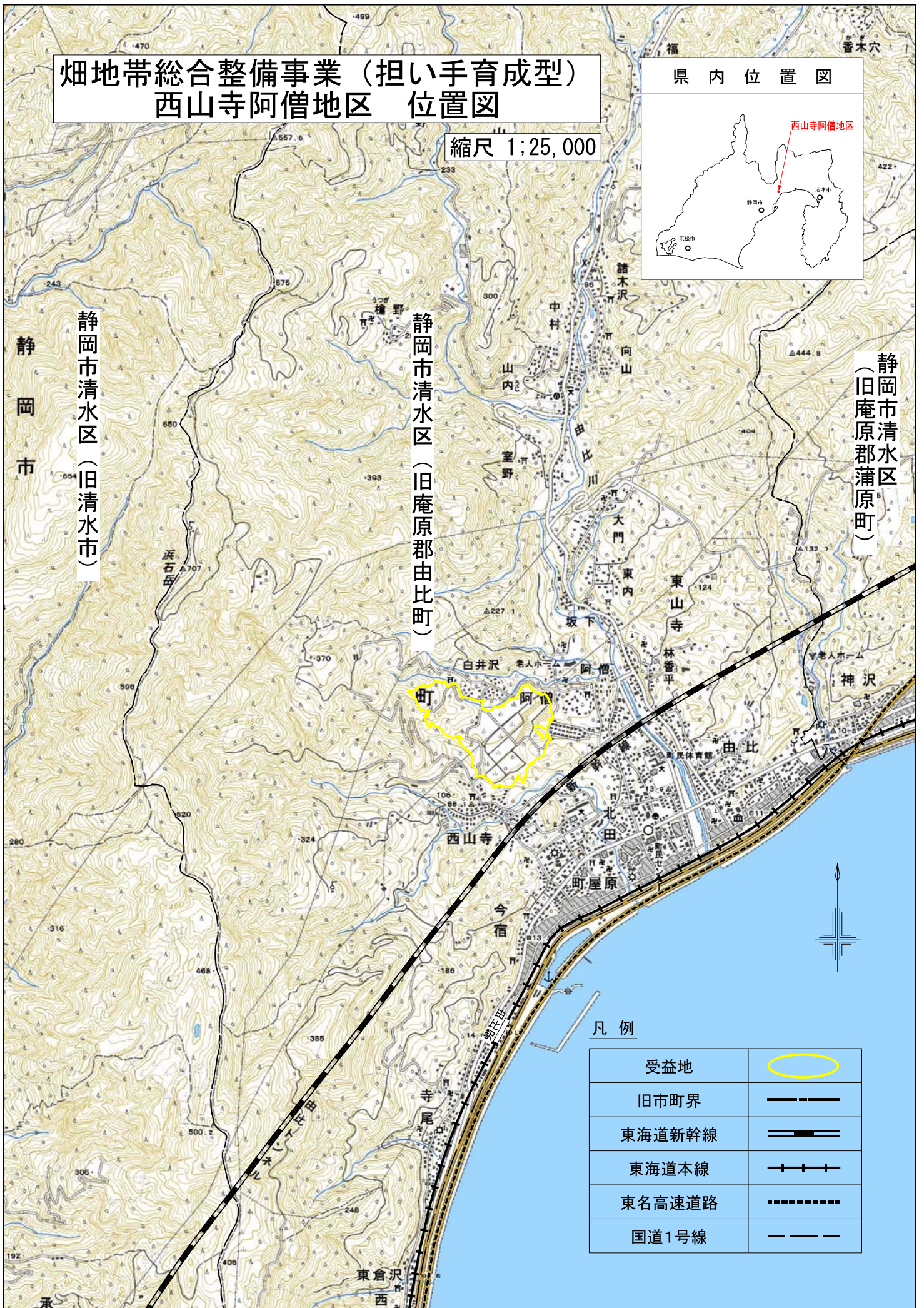
県内位置図



静岡市清水区
(旧清水市)

静岡市清水区
(旧庵原郡由比町)

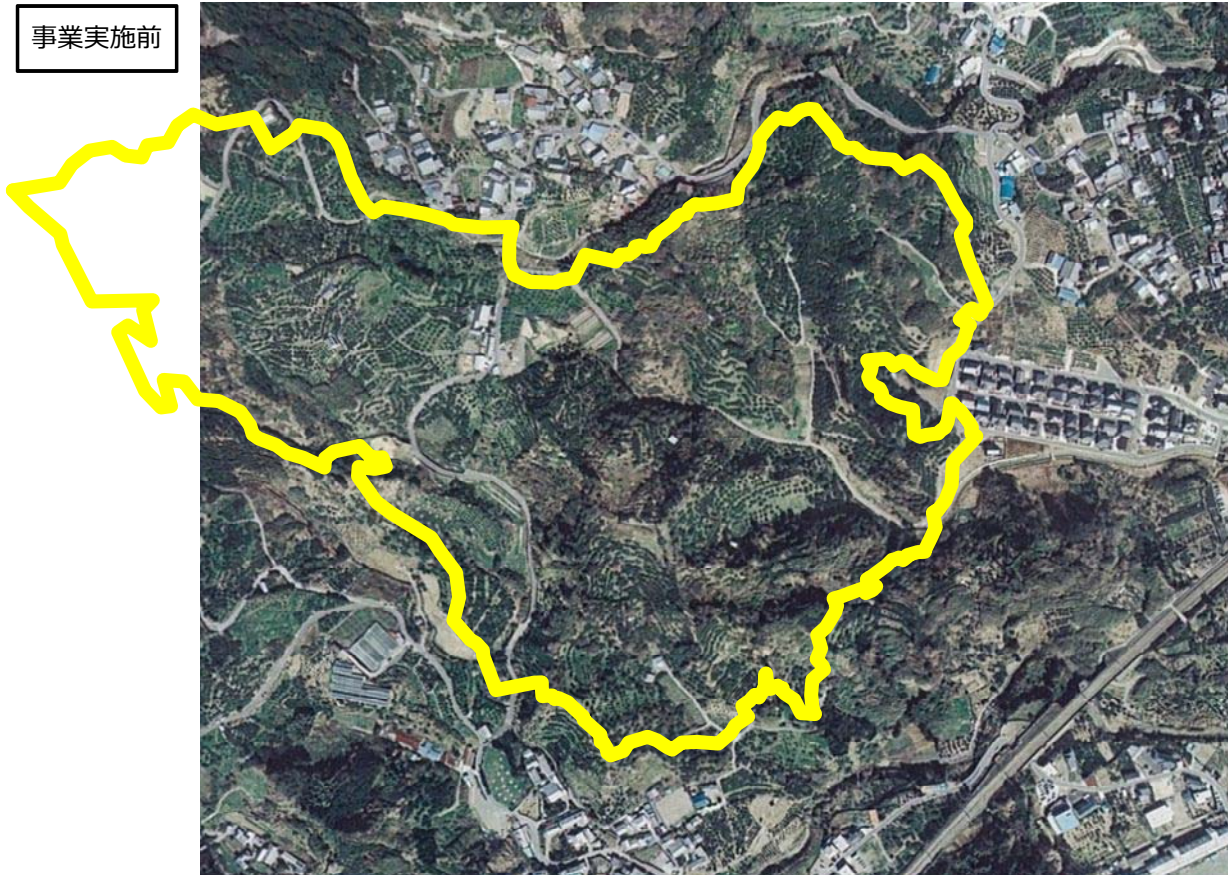
静岡市清水区
(旧庵原郡蒲原町)



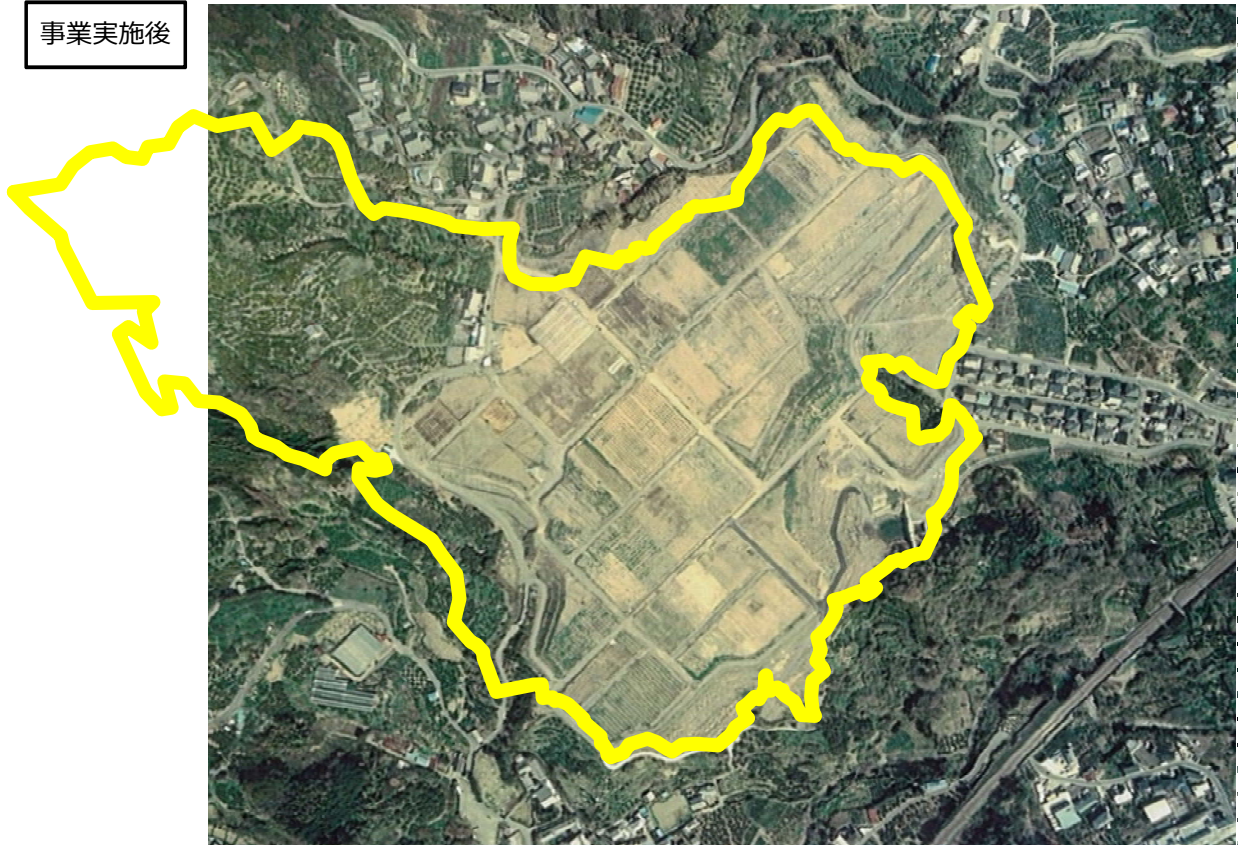
凡例

受益地	
旧市町界	
東海道新幹線	
東海道本線	
東名高速道路	
国道1号線	

事業実施前



事業実施後



凡例



区画整理工



農道工



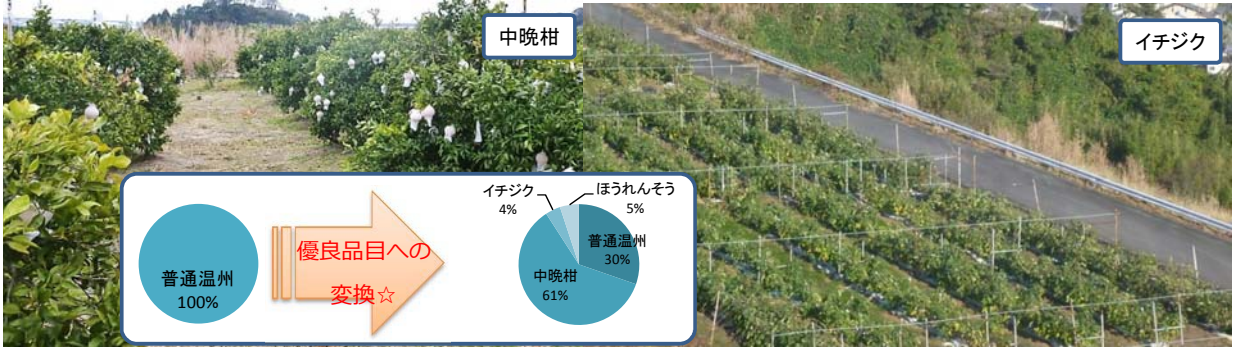
畑かん工



各種効果



施設栽培・マルチドリップかんがいによる高品質化☆

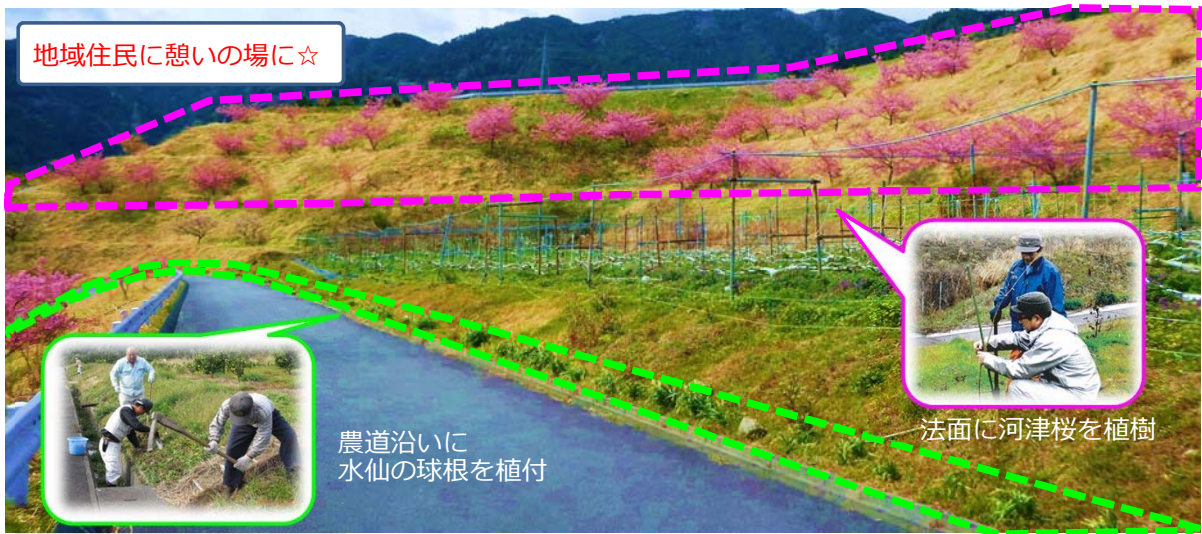


マルチドリップ灌漑

根からの水の吸い上げを制限するためシートを敷き、点滴かんがいをを行うことで果実の高品質化を図る

事業実施による環境・情勢の変化

～ふじのくに美農里プロジェクト「オレンジ浜石“S」による環境保全活動～



担い手農家への集積状況

